
Memory Of Truth

マサムネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Memory Of Truth

【Nコード】

N0057D

【作者名】

マサムネ

【あらすじ】

日記を書く主人公が大量殺人犯に迫っていく話です。その真犯人とは一体……。

FILEO／血塗られた日記（前書き）

アレックスは毎日日記を書くのが趣味だ。その中で彼はある事件について書いていくようになった。

FILE 0 / 血塗られた日記

15・May・07

三日前の事件だ。

深夜に近くの公園で30代の男性が撲殺されたらしい。体には無数の打撲傷があり、ショック死の可能性が高いとの事だ。衣類に付着した木屑から木刀ではないかと推測される。また、近くに住む住人は誰一人不審者を見かけなかったという。目撃証言が少ないため犯人の特定は困難だと思われる……

16・May・07

公園から数km離れた場所から犯行に使われたと思われる木刀が発見された。被害者の血がどす黒くこびりついて、何やら血文字で書いてあったらしい。はつきりとは覚えてないが……確か……思い出せない。明日になれば思い出すかな。

17・May・07

今日は大学の友達とアントウェルペン図書館で勉強する約束だ。アメリカも来るといいが……。待ち合わせの時間に遅れてしまう。続きは帰ってからにしよう。

17・May・07

アメリカは用事が出来たらしく今日は来なかった。少し残念だ。

そういえば、撲殺事件の犯人像が特定されたらしい。20代男性、身長175cm、フード付きのレインコートを着ているらしく犯行日の数日前に公園で目撃されていたらしい。20代と言えば自分と同年代だ。自分の身の回りの人かも知れない。そう考えると少し焦ってきた。アメリカにもメールを送っておこう。

18・May・07

窓の外は雨が降っている。

今日はせっかく休みがとれたと思ったのに……。

そしてまた事件が起きたらしい。

今度はサウスゲイツアパートの501号室で40代の女性の死体が発見された。

その死体は何か鋭利な物で切り刻まれており、床には血文字でまた意味不明な文字が書いてあったそうだ。部屋は密室で誰かが侵入した形跡もなく、完全な密室での犯行に警察は困惑している模様。警察は犯行手口が六日前の事件と似ている事から同一犯の可能性が高いと検討し、今回の事件との関連を調べていく方針だ。

最近事件が多いので外出はなるべく控えよ……。明日はルーナの買い物に付き合う日だ。晴れるといいな。おっとヘンリーから電話がかかってきた。それじゃまた明日。

19・May・07

家から30分程度で着くデパートの入り口で待っているとルーナが少し遅れてやって来た。ルーナは活発で明るい女の子で、高校からの仲だ。

彼女の明るい笑顔に何度か励まされ事もある。

さつさと買い物終わらして遊びたいと考えていたが、なかなか彼女に振り回されてばっかだ。そういえば昨日ヘンリーからノートを写させてくれと頼まれたのであるべく早く帰らなければ……。しばらくして、デパート内に野次馬の列が出来ていた。また例の事件らしい……。目に25歳の若者の無惨な死体が飛び込んできた。

22・May・07

デパートの死体の脇に在った紅い文字を見て以来気絶して、ルーナに運ばれ自室にいたる。二日間眠っていたわけではない。頭痛のせいで日記を書く余裕がなかった。次はお前だ」と書かれていた紅い文字は一体何が言いたいのだろうか？ルーナは死体脇にあった血文字が読めなかったらしい。今日のニュースもやはり連続殺人犯について事件との関連性を……。頭が……。痛い

23・May・07

連続殺人犯についてわかった事がある。

名前が判明したらしい、名はウォルス・ベイ・ブラッド。過去に犯罪歴はなく、真面目な青年とか。顔写真が公開されていた。顔は渋い大人という感じで、目はどこか冷徹さを秘めている。ルーナからメールが何通か届いてた。二日間連絡がなかったので心配していたらしい。迷惑をかけてしまった、今度何かお礼をしなければ・・・。

24・May・07

帰り道ルーナと一緒に帰る途中何者かにルーナが刺されてしまった。僕が少し離れた隙にルーナは左脚を刺され、その場に倒れ込んだ。ウォルス・ベイ・ブラッドのようにレインコートを着ていた人物が逃げ去って行くのが見えた。ルーナは軽傷で済んだが、心の傷は大きい。しばらくルーナの傍にいて励まそう、ルーナが落ち着くまで

25・May・07

今日のルーナは少し元気を取り戻したようで、いつも通り明るい笑顔だった。

一方ウォルス事件の犯人ウォルス・ベイ・ブラッドはまだ捕まらなそうさ。

その間に残虐な事件が起きた。

サウスゲイツアパートの近くの森で4人の男女の焼死体が発見された。身元が判明出来ないくらい焼けていて、ほとんどが炭だったという。そして近くの木にはまた紅い文字で、次はお前だ、と書かれていた。その下に犯行に使われたと思われるチェーンソーが発見された。なんて残忍なんだ・・・。

FILE 01 / レインコートの男

彼はネロ・ウィリアムズ23歳。最近サウスゲイツアパートの501号室に引っ越してきた住人だ。家賃の安さに惹かれ越して来たとのことだ。昔、人が殺されたとか?!...。管理人に聞いてみたが、詳しくは教えてくれなかった。

彼が自室に戻るとポストに赤黒い血の付いた日記が入っていた。一体誰が? 最初のPageには

15・May・07

三日前の事件だ。

深夜に近くの公園で30代の男性が撲殺されたらしい。体には無数の打撲傷があり、ショック死の可能性が高.....

日付が最近だ。確か今日は5月31日.....妙だな数週間前にそんな事件は起きてないはずなのに.....

とりあえず続きを読むことにした。最後まで読んだが、日記は5月25日以降Pageが切り取られていて読めなかった。確かに5年前に、この日記に書いてあるウォルス事件はあったが、ウォルス・ベイ・ブラッドという人物が存在したかどうかは定かではない。このウォルス事件は、あまりに奇妙だったため警察内ではタブーに成る程怖れられている。この事件に興味を持ったネロは過去の事例を調べていく事にした。過去の事例について調べていくうちに、犯人が独房内で何物かに殺害され死亡している事がわかった。自殺ではなく殺害された? 一体誰が???! 謎は深まるばかりだ。真相を確かめにネロはその刑務所へと向かった。刑務所は廃れていて、今は廃墟と化していた。

中は昼間でも光が入らない程暗く懐中電灯にて、ウォルス事件の犯人の独房を探す。しばらく歩いていると、赤い血痕が天井からポタ

ポタと落ちてきた。上を見るのが怖かった。誰もいないはずの刑務所の天井から血が落ちてくる事などありえない。そのままその場を去ったネロは刑務所から抜け出す事が出来なくなってしまうのだ。た．．．．。

大広間みたいな所に一人の男が立っていた。彼はネロに、次はお前だ。とつぶやくと、手に持っていた鉈を振り回しネロに襲い掛かる。ネロは刑務所の出口へと走った。間違いなく鉈を持った男はウォルス事件の犯人ウォルス・ベイ・ブラッドだ。奴は何故生きてる！？死んだはずじゃ．．．．．。そしてネロはある事に気付く。出口がない．．．死にたくない．．．．．。

背後にはウォルスが迫っていた。

ウォルスは鉈を振り上げネロの右肩に勢いよく振り下ろした．．．．．。

気がつくとも刑務所の独房内にいた。血は出てない。さっきのは夢だったのか、それともウォルスの霊？とりあえずこんな気味の悪い所から早く脱出しなくては．．．．。

気がつくとも独房内に血の付いた紙の切れ端が落ちていた。紙の切れ端にはあの日記の続きが書いてあった。

29・May・02

ウォルス事件の犯人ウォルス・ベイ・ブラッドが捕まったらしい。残念だ．．．．。あと少し楽しみたかった．．．なんて様だ。刑務所とはこんな汚い場所なのか．．．．。あっさりばれてしまうとは．．．．。ルーナを刺した時にしくじったせいだ、顔を見られてしまった。ル

「ナの奴殺しておけばよかったと今思うよ。それにしても第三者のふりは意外に疲れる。初めは遊び半分で、自分が犯した罪をただ第三者のように日記に書いていた。そのうち毎日が楽しみになり、ウォルス・ベイ・ブラッドという二重人格さえ作り出した……」

日記に出てくるレインコートの男は、昔雨が振る日ばかりを狙って18人も人を殺した猟奇殺人鬼だ。

この猟奇殺人鬼の復活を想像させるかのように、俺はレインコートを着て殺戮を行った。レインコートと聞くだけで周りの奴らは驚き、殺害をする上でこのうえない快感を得た。また、この刑務所にはある噂が絶えない。夜中、監視が警備をしているとレインコートの男が徘徊している姿を見かけたという。彼の執念だろうか？同じ殺人鬼として一度会ってみたい。

ウォルス・ベイ・ブラッドの正体は血の付いた日記の持ち主アレックスだった。彼は異常だ。自分で自分の犯行を日記に書き留め、ゲーム感覚で人を殺していた最悪な殺人鬼だ。しかし、最期は一体誰に殺されたのだろうか？また日記の日付が何故つい最近なのか？まだ紙の切れ端に続きがある、読んでみよう。

X・May・02

日付を忘れたのでXと表記しよう。明日はこの俺に罪の裁きが下る日、つまり死刑だ。明日が楽しみで深夜だというのに眠れない。やばい、足音がする！監視に気付かれたか……

足音が止んだ。安心して回りを見渡すと、目の前にレインコートの男が立っていた。レインコートの男は「次はお前だ」と言い、鉈で独房の鍵を壊し入って……

お前は……

結局日記はここで終わっていて誰に殺されたのかわからないままだ。

家に帰ると、ポストに血の付いた紙の切れ端が入っていた

X・May・02

ルーナは父親が何年か前に行方不明になっていて、母親もいない。
あんな広い家に一人で住んでいるなんて、寂しくないのだろうか。
だからこそ、彼女は普段明るいのかも知れないが……
ルーナは元々この住民ではなく、遠い所から引越して来たらしい。
そういえばルーナの家に行った時、ある部屋だけには入れてくれなかった。
不思議に思ったが、ルーナがあまりにしつこいのでその部屋には入らなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0057d/>

Memory Of Truth

2010年10月14日15時25分発行